るものをなどいふ、御まへにもおほせらる、おなじくはいひあて、御らんぜさせんと、おもへるかひなければ、御物のぐはこび、いみじうさはがしきにあはせて、こもりといふものゝ、つゐぢのほどにひさしさしてゐたるを、えんのもとちかくよびよせて、此雪の山いみじくまもりて、わらはべなどに、ふみちらさせこぼたせで、十五日までさぶらはせ、よく〳〵まもりて、其日にあたらば、めでたきろく給はせんとす、わたくしにもいみじきよろこびいはんなどかたらひて、つねにだいばん所の人、げすなどにこひて、くるゝくだ物やなにやと、いとおほくとらせたれば、うちゑみて、いとやすきこと、たしかにまもり侍らん、わらはべなどぞ登り侍らんといへば、それをせいしてきかざらんものは、ことのよしを申せなどいひきかせて、いらせ給ひぬれば、七日までさぶらひて出ぬ、其ほどもこれがうしろめたきまゝに、おほやけびと、すまし、おさめなどして、たえずいましめにやり、七日の御節供のおろしなどをやりたれば、をがみつる事など、かへりてはわらひあへり、里にてもあくるすなはちこれを大事にして見せにやる、十日のほどには、五六尺ばかりありといへば、うれしくおもふに、十三日の夜、雨いみじくふれば、これにぞきえぬらんと、いみじうくちをし、今一日もまちつけでと、よるもおきゐてなげけば、きく人も物ぐるをしとわらふ、人のおきてゆくに、やがておきゐて、げすおこさするに、さらにおきねば、にくみはらだゝれて、おきいでたるをやりて見すれば、わらうだばかりになりて侍る、こもりいとかしこう、わらはべもよせでまもりて、あすあさてまでもさぶらひぬべし、ろく給はらんと申といへば、いみじくうれしく、いつしかあすにならばいととう歌よみて、物に入てまいらせんと思ふも、いと心もとなうわび侍う、まだくらきに、おほきなるおりびつなどもたせて、是に侍ろからん所ひたものいれてもてこ、きたなげならんはかきすてゝなど、いひくゝめてやりたれば、いととくもたせてやりつる物ひきさげて、はやうせ侍りにけりといふに、いとあさましをかしうよみ出て、人にも語り